

# 自然観察 NOW

野幌森林公園自然情報

平成23年度 NO1

平成23年4月21日発行

北海道ボランティア・レンジャー協議会

## ネコヤナギ（猫柳）

## ヤナギ科ヤナギ属



早春の芽吹き的美しさに誘われて猫柳を採りに行った人がいるのではないのでしょうか。乳白色に輝く芽吹きは、真珠や絹の輝きに似て美しい。頭巾状の袋（鱗片）に覆われた芽も美しい。

ヤナギの仲間は、雌雄異株。沢山の花が集まって尾状花序（花穂）を作ります。花びらはありません。これは一般にネコとよばれ、英語でもキャトキンといいます。芽吹きの頃のヤナギ類をまとめてネコヤナギ（猫柳）といいます。

この時期のヤナギ類の総称です。写真をご覧ください。私たちの祖先は、古今東西をとわず、ヤナギ類の尾状花序を猫のシッポに例えたことを納得するでしょう。

ところが、ネコヤナギという種がありますから複雑です。北海道の場合、エゾノバッコヤナギを採ってきて「猫柳を採ってきた。」と、いうことがおおいです。そのことを、「それは、ネコヤナギではない。」という人もいます。あんまり気にしないで、日本文化に根付いた「猫柳」の言い方も大事にしましょう。



写真は、エゾノバッコヤナギの雄花の花穂です。沢山の雄花が集まって花穂を作っているのです。黄色の粒に見えるのは葯です。花びらは退化してありません。退化して密腺に変わっているのだそうです。

下の写真は、エゾノバッコヤナギの雌花です。雄花の葯の派手な黄色に比べると地味な感じですが、絹

のような美しい毛の間から花柱が伸び、その先にふたまた状の柱頭が見られます。

ヤナギ類は、ケシウヤナギを除いたすべてが、密腺の発達している虫媒花です。早春の寒い時期なのに、花粉の運び屋の虫たちがいるんですね。長い進化の果てに、ヤナギ類の命をつなぐパートナーとしての花粉の運び屋の虫が活動しているのですね。驚きです。



## ヤナギ類の種の同定はむずかしい

ヤナギ類は、どれもネコのシッポ状、しかも、葉も似ているものが多いです（例外もあります）。学者さんのなかにもヤナギ類の同定を敬遠する人がいるそうです。まして、素人同然の私たちですから…  
かつて観察会で、「これは、エゾノバッコヤナギです。」と説明したら、「どうやってエゾノバッコヤナギと同定したのですか。」と、質問を受けたことがありました。エゾノバッコヤナギとバッコヤナギの区別は学者さんにとってもむずかしいそうです。バッコヤナギは、北海道南西部分布。野幌近辺はみんなエゾノバッコヤナギと聞いていますから、前掲の写真でもエゾノバッコヤナギと書きましたが、問い詰められたら冷や汗ものであります。



今の時期、こんなヤナギの花も見られます。  
こちらの雄花はオレンジ色がかって美しい。葯が四つに分かれて見えます。  
ところが、何というヤナギなのか。図鑑を見ても分かりません。難しいです。



### 種子散布は柳絮（リュウジョ＝綿毛）に乗って

種子がみのるのは、5月～6月。

種子には無数の長毛がつき、これを柳絮といいますが、種子は、柳絮に乗って遠くまで運ばれます。散布距離は、数百メートルから数十キロメートル、ずいぶん遠くまで運ばれます。

種子の皮（種皮）は薄くて乾燥に弱いそうです。胚乳に養分を蓄えていないので軽いそうです。種子の寿命は3～5日と短命です（例外あり）。着地したらすぐに発芽しますが、好条件の場所に着地するとは限りませんから発芽率は高くはありません。長い進化の果てに、種子を軽くすることによって遠くに運ばれるという命のつなぎ方をしているのでしょう。

ところが、柳絮は人間にとって嫌われます。家の中にも飛んできますから嫌われるのでしょう。街路樹に柳を植えることもあるのですが、雄株だけを植える傾向があるそうです。柳絮が飛んでくるのを嫌うからでしょう。雄株だけの苗は、挿し木などで増やすのでしょう。

### ポプラはヤナギ科ヤマナラシ属

ポプラもヤナギ科ですから、綿毛を飛ばします。こちらは、楊絮（ヨウジョ）といいますが、ポプラの楊絮舞う頃は、必ず新聞記事に取り上げられる風物詩であります。